

伊賀の祖父にならないスクラップ

記事ノート 僕の足跡

沖縄県南城市（ななき）の玉城小四年、吉川琉碧君（りゅうせき）（10）は、中日新聞の記事を長年切り抜いていた祖父の姿を見て、三歳で新聞記事のスクラップを始めた。自分の感想を書き込んだノートは約二千冊になり、三日に名古屋で始まったNIE（教育に新聞を）全国大会名古屋大会二日目の四日に、切り抜き作品が分科会の会場で展示される。吉川君は「最後におじいちゃんからもらった切り抜きは今も大切にしている。スクラップはずっと続けたい」と話す。（世古絃子）◎面参照

沖縄の小学生3歳から20冊に



祖父の森本昶さんの影響を受けて、新聞スクラップを3歳から続ける吉川琉碧君。昶さんからもらった新聞記事室は今も大切にしている＝愛知県常滑市の中部国際空港で



森本昶さん

吉川君の祖父の森本昶さん（しろう）は昨年七月に七十二歳で亡くなるまで、切り抜いた記事をファイルにとじるのが日課だった。「僕もやってみただった昶さんにそう話すと「感想も書くの良いよ」と



アドバイスをもらった。最初に貼ったのはチラシに載っていた犬の写真。沖縄県宮古島市で生息数が減っているヤシガニの保護区を設けるといふ記事や、中国の月面探査機が着陸した記事など、少しずつ興味を広げた。最近では朝五時ごろ届く地元の沖縄タイムスを広げて、一面から社会面まで目を通す。「面白かったり、謎に思ったりした記事を選んでみる。今は藤井聡太四段や絶滅危惧種、事件に興味がある」

昶さんからは毎月数回、段ボールが届いた。野菜や

おもちゃに交じって、切り抜きが一〜五枚入っていた。「僕が好きな虫とか動物系の記事が多かった」

最後にもらったのは、小学生が哺乳類の骨格化石を見つけた中日新聞の一面記事。肺炎で急逝する約一週間前に帰省したとき、手渡してくれた。「内容も説明してくれたのを覚えている。おじいちゃんからはもうもらえないから、最後の一枚は大切」

に握えるのか。スクラップが「楽しみ」。おじいちゃんが気付かせてくれた新聞の面白さに、目を輝かせる。

大会二日目の四日は公開授業や実践報告、特別分科会が名古屋国際会議場（名古屋熱田区）である。分科会「新聞切り抜き作品の教育効果検証」では、全国八社が主催する新聞切り抜き作品コンクールの受賞作品を展示。昨年の沖縄県新聞スクラップコンテスト（沖縄タイムス社主催）で、最優秀の県知事賞を受賞した琉碧君の作品も含まれる。